

2006
April

vol.
36



The Marian

京都ノートルダム女子大学 同窓会 会報

- 第41回総会報告
- 第4回ホームカミングデーについて
- 国際交流マリアン奨学基金行事報告
- クラスアクティビティー案内・パソコン教室
- 第42回総会案内



「心が通う場所」

会長 人長 久巳子
(7E)

会長の職を引き受け、早一年が過ぎようとしております。10数年ぶりの本部復帰を決意させたのは、この場所が言葉以前に心が通う所であると、確信したからです。日々、本部役員、歴代会長、クラスアクティビティーの世話役の方々など、多くの人々のご協力をいただいております。

なにげない日常の中で、ふと出会った人がノートルダムスピリットの下で過ごした人だとわかった時、心の中の砦が消えていくのを感じたことが、きっとあると思います。同窓会とは、その様な価値ある存在です。今や、会員数も1万人を超えました。この貴重な出会いの場に、もっと積極的に参加してみませんか！！

4月から大学は、人間文化学部と心理学部の2学部制に再編成されました。そのため、校舎の増改築、学生の定員増、教職員の増強等、大きく変化する年になります。また、それに伴い、同窓会館「マリアンハウス」西側にある大学の運動場の売却が決定しています。同窓会はその運動場を駐車場として使用していた関係で、今後の活動に支障が生じるのは必死です。大学側との話し合いの中で、大学の敷地内に同窓会館としてのスペースを確保してもよいと言う提案をいただいております。本部役員会は、以前より会員の方々から「マリアンハウス」の地の利の悪さを指摘されておりましたので、この機会を得て、前向きに検討して行きたいと考えております。この件に関してのご意見、ご要望をお待ちしています。

同窓会は大学が健在であってこそ存在価値があります。今、まさに躍進しようとしている大学に、皆様の暖かいご支援をお願いいたします。



役員会の様子

「題字に寄せて」

Sr. セリーン 松本



「マリアン」の装丁が変わるので、題字を横書きにして欲しいとの依頼を受けました。前号までの縦書き題字は、1994年、当時、顧問であった私の拙い手書きでした。

顧みますと、同窓会が発足したのは1965年、第一期生が卒業した年の6月27日で、会報の創刊号は10月11日に出了ました。初代学長、故シスター・ユージニアがThe Marianと命名され、題字も自筆で書かれたのです。この自筆の題字は、第4号まで用いられていましたが、その後、英語の活字に変わっています。更に、片仮名の活字で「マリアン」となり、横書きの時も縦書きの時もありました。何故、このように題字が変わったのかわかりませんが、推移の一途を示しているのでしょう。

今回、横書きにするなら、初代学長直筆を復刻版にするのが妙案かと思いました。しかし、創刊以来、当初のスピリットが毎年の会報によって、今も尚、脈々と生き続けていることを考えると、現存する者が書くのも筋合いかと思い、オリジナル・スピリットを再現する意味で、英語で書いてみました。

マリアはイエスの母になられた瞬間から、周りの出来事を全て心に留めて、常に、神のみ旨が実現することのみを望んで生涯を過ごされました。マリアの信仰と希望が、*The Marian* を読む同窓生の支えと励ましになりますように祈っています。

〈平成18年度本部役員〉

会 長	7C	人長久巳子(東)
副 会 長	4E	大田喜代子(森)
書 記	9C	下水木淑子(森橋)
	4E	島田真由美(渡辺)
会 計	13C	谷川 郁子(亀有)
	6E	重松 叡子(長谷川)
	9E	吉田梨予子(井上)
庶 務 (広 報)	9C	羽鳥美登里(川本)
	10E	田 靡 博子(田靡)
(名 簿)	5E	西村 邦子(中村)
	11E	滝口 壽子(高橋)
マリアンハウス運営委員会	12E	中井 恭子(塚本)
	12E	岩間 恵世(芳川)
会 計 監 査	3E	片桐 比佐(田中)

「あらたまの年に あたり」

学長
名誉顧問 相良 憲昭



京都ノートルダム女子大学の学長職を拝命して1年が経過しました。この間、大過なく任を果たすことができましたと書きたいところですが、去年の4月末に本学教員による不祥事が発覚し、数か月にわたりその対応に苦慮しました。結果的に、少なからぬ学生が教学上あるいは精神的な影響を受けました。同窓生の皆様にも、ご心配やご迷惑をおかけしたことを、あらためてお詫びを申し上げます。近年どの大学でも職業人としてのFD（教員研修）やSD（職員研修）の重要性が叫ばれていますが、当たり前のことながら、人間としての心のあり方こそが教育の基本だということを、今般の事件で改めて認識させられた次第です。

大学を取り巻く環境は、高校卒業生の学力低下が顕著となる「2006年問題」や、大学全入時代の幕開けといわれる「2007年問題」などによって厳しくなっています。今後5年間に、15校に1校の割合で大学が破綻するという試算もあります。強いエネルギーで終始活動し、社会が注目や評価をしてくれるような大学でなければ生存は覚束ないのです。その意味で、平成20年に竣工予定の松ヶ崎キャンパス（仮称）が新たな京都ノートルダム女子大学のシンボリック的存在になってくれることを期待しています。今後とも、同窓会の皆様の、大学への温かいご支援やご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

目次

会報「マリアン」第36号

- | | | |
|-------|---------------------|---------------|
| 01 | 「心が通う場所」 | 会長 人長 久巳子 |
| | 「題字に寄せて」 | Sr. セリーン 松本 |
| 02 | 「あらたまの年にあたり」 | 学長 名誉顧問 相良 憲昭 |
| | 「新顧問あいさつ」 | 顧問 東 朝子 |
| 03 | 第41回総会報告 | |
| 04 | 会計報告 | |
| 05 | 第4回ホームカミングデーについて | |
| 06 | 支部だより | |
| 07 08 | 同窓生短信 | |
| 09 | 祝周年記念同窓会報告 | |
| 10 | 国際交流マリアン奨学基金行事報告 | |
| 11 | クラスアクティビティー案内 | |
| 12 | ファミリーコンサート。パソコン教室案内 | |
| 13 | マリアンハウス活動報告 | |
| 14 | 第42回総会案内 | |

「挨拶」

新顧問 東 朝子



Sr.ベルナルド岩井の後を受け、キャンパスミニスターのお役を頂戴したと同時に、同窓会の顧問までお引き受けすることになりました。どうか宜しく願いいたします。

宗教音楽を中心に授業も担当しておりますので、キャンパスミニスターとしてのお仕事や同窓生の方々とのおつきあいもまだまだ充分にできておりません。

最近の学生はノートルダムの良き時代とはずいぶん変わったと言われます。確かに社会の状況が変わり、昔のノートルダムらしい学生が少なくなったように感じることは事実です。家庭環境に問題を抱えた学生や、精神的な病を持つ学生なども多いように思います。なかなか思うように授業に出席できないケースも増え、学年末になると「出席日数が足りないのではどうしたら良いでしょう」という相談がよく持ちかけられます。キリスト教とか宗教とかいうものは好きじゃない、うさんくさいと思っている学生もおります。宗教離れは世界的傾向かもしれません。

しかし一方、キリスト教サークルに興味を持ち、参加する学生も、ほんの僅かではありますが、集まっております。そして実は、そういう精神的なものを求めている学生は案外多いのです。宗教音楽の授業でしばしば、感想文を書かせますが、キリスト教的な考えに賛同し、求めていることが窺えます。

ノートルダムの教育のモットー「徳と知」を私は音楽を通して、そしてキャンパスミニスターとして、実践して行きたいと思っております。

輝いていた頃（相良学長のお言葉）学生でいらっしゃった同窓会の皆様から、お力をお貸し頂きたいとも考えております。

今年も皆様のご健康とお幸せをお祈りいたしております。



第41回 総会報告

2005年5月22日(日)

五月のさわやかな風の吹く日曜日、第41回同窓会総会が京都宝ヶ池プリンスホテルにて開催されました。

11名の来賓の先生方、106名の会員の皆様にご出席いただきました。



学歌斉唱のあと、帰天された恩師、卒業生のご冥福を祈って黙祷を捧げました。会長挨拶に続き、活動・会計報告、新年度予算案と新会長候補の承認と挨拶などの議事が滞りなく終了、国際交流マリアン奨学基金、マリアンハウス管



理運営委員、手芸ボランティア、関東支部、中部支部から活動報告が行われました。また、今年度もボランティアより支援金がネパール教育修道会とラリグランスに贈呈されました。

引き続き、名誉顧問の相良学長、顧問のシスターベルナルド岩井、新顧問の東先生よりご挨拶をいただきました。祝周年の学年紹介とバラのプレゼントをもって総会の部を終えました。

懇親会はシスタージュディス鎌田の乾杯で始まり、来賓の先生方の紹介が行われました。おしゃべりしながらの昼食後、卒業30周年



記念学年の11期生の企画による「カフェ・ライブ」でおしゃれなジャズギターの演奏とボーカル、軽快なトークを楽しみました。

恒例のミキモト賞品などがあたる抽選会で盛りあがったあと、マリアンコーラスの美しい歌声に耳を傾け、最後に



全員で「シャローム」を合唱し、平和を祈りつつ閉会となりました。

平成17年度 活動報告

- 5月** 第41回総会 (宝ヶ池プリンスホテル)
関東、中部支部委員との合同ミーティング
各クラス春期開講
- 6月** 国際交流マリアン奨学基金より留学生に奨学金授与
パソコン講習会 (ユニソン会館)
※ 料理講習会 (変わりずし)
日文研 「大覚寺 写経と拝観」
- 7月** 同窓会合同委員懇親会
※ 講習会 「フラワーアレンジメント」
- 9月** ノートルダムファミリーコンサート参加(京都コンサートホール)
日文研 「MIHO美術館見学」
※ バザー作品作り
- 10月** 各クラス秋期開講
マリアンハウス チャリティーバザー
歴代会長、元マリアンハウス建設委員合同会議
- 11月** 大学「ホームカミングデー」参加
物故者追悼ミサ (ユニソン会館)
関東支部同窓会出席
日文研 「大山崎山荘美術館見学」
- 12月** 留学生日帰りツアー (神戸ルミナリエ)
「ノートルダムクリスマス」参加(ユニソン会館)
- 1月** 各クラス冬期開講
日文研 新年会「雅楽 鑑賞」(京都リーガロイヤルホテル)
- 3月** 同窓会新入会員への説明会
第42回大学卒業式列席 (5期生招待)
日文研 「くみひも体験」
※ 講習会 「トールペイント」
- 4月** 平成18年度大学入学式列席
会報 「マリアン」発行
日文研 「神戸方面見学」
※ 講習会 「ガーデニング」

〈注〉※印はマリアンハウスプログラム
日文研は日本文化研究会の略

〈お知らせ〉

- 本部役員選出について
本年度から同窓会役員指名委員会を設立いたします。



第4回 ホームカミングデー

■ Je vous salue, Marie pleine de
grâce. Le Seigneur est avec vous.
Vous êtes bénie entre toutes les
femmes. Jésus, le fruit de vos
entrailles est béni. Sainte Marie,
Mère de Dieu, priez pour nous,
pauvres pécheurs, maintenant
et à l'heure de notre mort.
Ainsi soit-il.



大学祭1日目の
11月2日、懐か
しい本館（ユー
ニア館）2階25
0教室において、
卒業生による、マ
リアンコーラスが

東先生の指揮により歌を披露しました。そのあと、
「懐かしの講義を今一度」とのタイトルで、当時
の文学部教授でフランス語を担当されていた阿部

哲三先生を講師
にお招きし、ア
ヴェ・マリアの
歌詞を題材に、
フランス語によ
る解説をお聞き
しました。先生



は現在もお元気に各所で講義をしておられ、楽し
い話術と深い内容に皆で聞き入りました。その後は、
クラブ発表、展示を見学し模擬店の食べ歩きを楽



しみ、マリア館
1階のガイスラー
ホールに用意さ
れたお茶とお菓
子を頂きました。
「ホット・ビー
ト・スタイル」

と言う素敵な大学祭のテーマは、私達卒業生の心
にも響いてくるようでした。



「スカラベ師匠」

と弟子たち



中川 淑子（8E）

11年前に始まった、フランス語クラスの阿部
哲三先生には「スカラベ」(Scarabée)という異名が
あります。その心は、先生のお名前にその発音が
似ていることによるのですが、多くは先生の教師
としての「生き様」がスカラベの如くであること
からだと思われます。「スカラベ」とは、古代エ
ジプトで崇拝された「たまおしこがね」のことです。

先生の50年以上にわたる教師人生は、その独
特の宇宙観に基づいた手作りの宿題やテストを毎
回学生に課し、先生自らがその添削を繰り返すとい
うものです。我々15名の社会人学生達も、いつ
しかこの「スカラベ師匠」の弟子となり、フラン
ス語のマキシムや奇譚とも言える数々の小説と
取り組む日々を送ることになりました。「ユルスナ
ール」の作品の中で、天才画家「バンホー」が弟子
と共に小舟に乗り、自らが考案した翡翠色の海の
絵の中に浄化し消えて行くラストシーンがあります。
そんな風に人生を全うすることは無理にしても、
コンスタンスを目標に、もう暫く、師匠や弟子達
と共にフランス語の宿題に追われる日々を過ごせ
たら...と思っております。

本年度ホームカミングデーのご案内

平成18年11月2日（木）
多数のご参加をお待ちしています。

卒業式へのご招待

来春は、8・9・10期生が招待されます。
式典後、昼食が用意されています
ふるってご参加下さい。

平成19年3月14日（水）



支/部/だ/よ/り/

関東支部

関東支部長 香川 雅子 (14E)



早いもので、私達14期生が担当いたしました同窓会の役目も2年の任期を終え、15期にバトンタッチすることができました。反省することも多々あるものの、無事終了できたことを感謝しております。

支部の活動を通して、今まで会う機会が少なかった同期の仲間たちとの交流が深まりました。また、学年を超えて支部のために協力して下さった皆様に御礼を申し上げます。

11月20日(日曜日)、晴海トリトンの「クイーンアリス」で支部総会を開きました。大学からは、名誉顧問の学長様、新顧問の東先生、前顧問のシスターベルナルド岩井、そしてシスターメリーアン押山の出席を賜りました。本部役員会からは人長会長、下水木副会長、広報の田藤さんが出席されました。先生方からは、最近のノートルダム事情を聞きましたが、時代の要請による大学院の設置、学生の増加など、昔とはずいぶん変化していることを痛感しました。今回は「オータムライブ」と称したミニコンサートも実施しました。ジャズにアレンジされた学歌をヴォーカルの女性が唄い出したときには、全員が驚き、感動しました。参加者は51名でしたが、ひとつにまとまった心温まる同窓会になりました。

関東支部には多彩な才能を持ち、社会に貢献されている方が数多くおられます。女性の社会進出は、その人が今まで何を学び、どのように考え行動してきたかが、問われます。また、家族のやすらぎとなり、家庭に貢献されている方も多くおられることでしょう。



「クイーンアリス」

私たち一人ひとりが京都ノートルダム女子大学で学んだことを日常に生かし、それぞれの役目を心を込めてやっていきたいですね。2年間ありがとうございました。

「新役員紹介」

支部長 藤田 英子 (15E)
会 計 古宇多久美子 (15E)
会 計 川崎 洋子 (15E)



中部支部

中部支部長 仙田 悠美子 (3E)



平成17年11月5日(土曜日)ノートルダム女学院一期生で、現在は、滋賀文化短期大学助教授をされている丸山公子先生をお招きし、「老人在宅介護の望ましいあり方」というテーマで講演会を催しました。

介護保険制度やサービスについて、老後に向けて準備すべき事、幸せな老年期など、先生の豊かな経験と体験からのお話は、身につまされる思いで聞き入りました。特に、「生きてきたように老いる」という言葉には、ドキッとさせられました。

出席者は少人数でしたが、先生の温かいお人柄もあり、終始和やかで充実した時間を持てたこと、感謝しております。

中部支部の活動の中で、およそ20年もの永きにわたり続いております、シスターセリーヌ松本による、「NDおあしす」会があります。

毎月1回、滋賀県の唐崎修道院からご足労願っているわけですが、シスターの並々ならぬ情熱と同窓生への思いに心から感謝するばかりです。

聖書の1節から、ある時は1枚の絵から、シスターのお話を通して教えられる事がいかに多いことでしょう・・・シスターを囲んでの昼食タイムも様々な話題で花が咲きます。

シスターが「心のオアシス」になるようにと名づけられたこの会は、まさに、心のやすらぎを感じるひと時です。



「NDおあしす」2006.2.10

今年度の予定

総会 & 懇親会 日時 11月12日(日)
場所 ホテル ナゴヤキャッスルプラザ
(幹事) 杉山康代 (18)
高岡貴子 (18)

「友」発行 10月

「NDおあしす」会 毎月第2金曜日
場所 国際センター(詳しくは仙田まで)

同窓生 著書 紹介

グラスリッツェン
スタンダードメソッド
2100円(税込)
講談社出版サービスセンター



宮崎 純子 著(7E)

同窓生短信

「園長業は私の天職」
黒木 信子（3E）

ひまわり幼稚園にて
（右）黒木信子
（左）お母様



母から受け継いで現在、私立幼稚園の園長をしています。今年で6年目、長野市にあるので「長野ひまわり幼稚園」という名です。西暦2000年にこの役職を引き受けた時、三度目のガン発病を乗り越えたばかり、不安もありましたが、覚悟を決め着任しました。それから5年余りの時が経ち、振り返ってみれば病気で欠勤した日は一日もない程です。

朝は早く起きて、日中は若い職員達と精一杯働きながら幼な子と共に過ごし、夜は疲れて早く眠ってしまう、という毎日です。楽しいこと、面白いことが沢山あります。

先日、4歳の女の子、Yちゃんが自分で描いた絵を私にくれました。その子の解説によると、手をつないでいる二人、女の子が「えんちょうせんせい」で、男の子は、Yちゃんの憧れのK君です。「この二人は何をしているの？」と私が尋ねると、「けっこんするの！」とYちゃん。たまたま側にK君が居たので「K君！園長先生とK君、結婚するんだって！いい？」と聞くと、K君はじっと静かに考えてから「できないよ」と言います。「どうして？だめなの？」と私が反問すると、困ったように小さな声で「だって、えんちょうせんせい、おばあさんだもの」と回答。K君に教えられて初めて「あっ、そうなんだ。園長先生って、もうおばあさんなんだね」と気付く61歳。ノートルダム女子大の寄宿舎で幸せに暮らした日々は遠い昔の事となりました。

「カラオケと私」
山本 すみ子（10E）



（左）山本すみ子

平成17年6月、53歳の時に「カラオケ教室」の先生になりました。やっと見つけた「私の生きる道」です。以前から歌を唄うのが好きでカラオケ大好き人間でした。そして、今の師匠に出会ってから、私の人生は明るく変わっていきました。それはあるカラオケ大会に出場した時のことです。大会終了後審査委員長をされていた師匠が「あなたは良い先生について勉強すればもっと成長するよ、磨けば光るダイヤモンドの原石のようなもの。がんばってレッスンを受けませんか？」と言われたのです。不安定な自分の心に、その言葉はズバッ！と的中しました。「よし！やる

ぞ！」と決意しました。その後の2年間は個人レッスンとグループレッスンを受けました。またその後の1年間は、講師資格取得の勉強をしました。なつかしい受験生の時のように必死でがんばりました。ポッチャリ型の体形がホッソリしたほど……でした。晴れて「カラオケ講師」になり、現在は3ヶ所の教室でいろんな年代の生徒さんに教えております。「優しく、易しい」をモットーに生徒さんたちに楽しい時間を過ごしてもらえよう努力する日々です。

唄うことは本当に気持ちいいですよ！

歌詞をじっくり読んでみれば、心に染みる歌がたくさんあるのに気がつきます。

カラオケは健康増進のサプリメントです！！？

Let's sing a song !

「自立に向かう
子どもたちを
応援して」
高橋 由紀子（18C）



教え子と
（右）高橋山紀子

中学校家庭科教員として、24年が過ぎようとしています。ここ数年には、担任として初めて卒業させた教え子に、我が子が高校でお世話になったり、幼なじみの子供さん、高校の時同じクラスだった友だちの子供さんの担任になったりと、なつかしい出会いと驚きもあり、時代の流れを感じずにはられません。教員として日々の仕事はさまざまに忙しくしています。授業は実技教科なので実習や製作も行います。生徒たちの興味・関心の有無、得手、不得手もあるのでなかなか一様にはいかず難しいところがあります。しかし実習の中でも調理実習、これもなかなか大変ですが、生徒たちは生き生きと取り組んでいます。自分で作ったものを昼食とは別に学校で食べられるというのは、家で作って食べるのとは一味違い、楽しく味はともかくおいしく感じているようです。食べたいものは買えば何でも食べられる時代ですが、自分で作って食べることも自立して生きる基本の一つであると思います。最近児童生徒が被害者になる痛ましい事件が多発し、心痛みます。生徒たちは以前にも増して自らの身を守る意識もしっかり持たなくてはならなくなりました。そんな社会にこれから自立し、歩み出さなくてはなりません。自分で生活を切り開いていく力をつけさせると言うより私は、これからも支え育て、応援していこうと思います。



「田舎暮らし」
堀 仁保子 (4E)



17年10月末、4期生の還暦同窓会に参加し懐かしい友との再会を元気に果たし、とても感慨深いものがありました。

大学卒業後ノートルダム女子大学の図書館で勤務、その後、夫の勤務の関係で名古屋、大阪、横浜と転居いたしました。大都市での生活に別れを告げ、山梨県北杜市に引っ越してきましたのは今から3年前です。ここは山梨県の北西部で北は八ヶ岳連峰、南西は甲斐駒ヶ岳からなる南アルプス、東は百名山でも有名な茅ヶ岳、瑞垣山など日本を代表する山々に囲まれた風光明媚な地です。又遠くには富士の頂きを眺めることも出来ます。そして、日本で一番日照時間の長い地だとも言われています。そんな訳でとても気に入りましたが、自然の魅力以外に住みやすいのは、私の住む大泉町の人口の半分がよそ者だということにも関係しているかもしれません。

ここで、私がこの地で楽しく暮らしているお話をしたいと思います。楽しみの一つは遅い春から始める畑仕事です。私はと言えば、畝を作り、マルチと呼ばれるビニールシートをかけ、そこに苗を植えたり、種を蒔いたりです。去年はジャガイモ、とうもろこし、しし唐、ナス、トマト等を作り、せっせと食べています。勿論、お友達に差し上げ喜ばれたりもします。雑草との戦いは大変ですが、収穫の喜びで苦労が吹っ飛びますから、めげることなく毎年励んでいます。

もう一つの楽しみはプール通いです。市の大会に出場したところ、50歳代の参加が少なく優勝してしまったのは、楽しい経験でした。

このような、のんびりした生活の中で、健康を第一にして、ゆっくりと過ごすことの幸せを噛みしめています。あとは、脳みそがノンビリしてしまわないように、プールの水に流れていってしまったりしないように、が課題かもしれません。

「大学院での生活」
松本 桜子 (41H)



(左) 松本桜子

大学を卒業して早いものでもうすぐ一年が経とうとしています。私は昨春に京都ノートルダム女子大学大学院の人間文

化研究科人間文化専攻に一期生として入学しました。大学と同じキャンパス、同じ先生方ということもあり、環境の変化はあまりありませんでした。しかし、大学院では学部時代より更に少人数ということもあって、今まで以上に落ち着いた環境の中で研究を始めることができました。

現在は修士課程1年も終わりに近づき、修士論文制作のため、日々研究を重ねています。私の専攻は国際文化論で、人間文化研究科の名前にも含まれている文化についての研究を、国際的な視点から考察しています。ノートルダムで過ごしている時間の中で得た様々な体験を基に、国際社会で生きる我々にとっての文化について研究をしたいと考えています。

ノートルダムで多くの事を吸収し、これからの研究活動に生かしていきたいと思っています。

「近況報告」
多田 貴美子 (40E)



大学を卒業して早くも二年が経とうとしています。友人と毎日のように顔を合わせていた学部時代の頃が懐かしく思い出されます。現在私は大学院に進み、小山先生のご指導のもと修士論文を仕上げるためコンピューターに向かう毎日を過ごしています。また、就職先が決まり、大学で学んだことを活かせる仕事に就けたことを大変嬉しく思っています。大学院を修了しノートルダムから離れることは寂しくもありますが、社会人としての新しいスタートに胸をふくらませています。卒業後も同級生やOGの皆様方とお会いできる日を楽しみにしております。

「卒業後の私」
葛本 桂愛 (41W)



マリアンの紙面をお借りしてお便りできることを大変嬉しく思っています。大学を卒業して、1年が経とうとしています。私は、現在、大学院・生活福祉文化専攻の修士課程1年に在籍しています。

生活福祉文化専攻では、さらに、生活福祉領域と健康生活文化領域に分かれるのですが、私は、健康生活文化領域に属し、健康関係の授業を中心に履修しています。どの授業も少人数で内容も濃く、また、課題も多いため、大学の時よりも比べものにならない位、忙しくなりました。しかし、ただ単に忙しくなったということではなく、授業の分からない所は、遠慮なく先生に質問することができる恵まれた学習環境のもとで、とても充実した毎日を過ごしています。また、1年次から、修士論文も始まりました。院生同士が修士論文の構想等を発表しあう中で、先生方から、たくさんの意見や指摘をされることも多く、どのように作成していけばよいかを考えながら進めている最中です。

祝周年記念同窓会 報告

4期生「還暦同窓会」



菓子田 道子(4E)

戦後60年の本年は、私達「終戦っ子」4期生の還暦の年でもあります。いつもは、5年毎に催す同期会を、この還暦に合わせ平成17年10月28日、「琵琶湖ホテル」にて開催しました。Sr.セリーン松本とSr.メリアン押山をお迎えし、誕生日を済ませた方もこれからの方も、総勢50名が元気に集いました。早!60歳を迎えた喜びと感謝を、信じられない思いで、お互いに祝いました。各自2分間の近況報告と学歌合唱の一次会の後、熱気いっぱい話が続く中、20名が「ミシガン」に乗り夕暮れの琵琶湖巡りへ。22名が温泉を楽しみ、宿泊しました。記念品の「赤いハンカチ」と楽しい思い出を持って帰った、秋晴れの日でした。

6期生「35周年同窓会」

6期生 同窓会 11月19日
(宝ヶ池プリンスホテル茶寮にて)

福田 充子(6E)

平成17年11月19日、京都宝ヶ池プリンスホテル茶寮にて同窓会が行なわれました。5年振りに会う人もいれば、もう何年会ってないかしらと思う人までが集う中、すぐには名前が出てこなくても、いとも簡単に女子大時代に帰ってしまうのです。“お互いちょっと変わってないわねえ”なんて言えるのもこの時だけの特権。豪華な会席料理を目と舌で楽しみながら、あちらこちらで

思い出話に花が咲き、時間の経つのが速いこと。親の介護・病気・主人のことから子どもの結婚・孫のこと……等々、話は尽きませんでした。

食事後は茶話会となり、お天気に恵まれた晩秋の古都のひとつを一人一人が満喫出来たと確信しています。別れを惜しみ、近いうちの再会を約束し、心の中に暖かいおみやげをいっぱい持って家路へ着いた私達でした。

同窓会を開催するにあたり、大変お世話になりました幹事の方々、そしてご参加くださいました皆様、ありがとうございました。

See you soon!!

11期生「30周年同窓会」



滝口 壽子(11E)

平成17年5月22日、宝ヶ池プリンスホテルにて開催された同窓会総会は、私達11期生の卒業30周年記念も兼ねた会となり、近畿はもとより、遠く北海道からも参加して下さった同期生32名が集いました。総会の最後に、祝周年のお祝いのバラの花をいただき晴れがましくも喜びのうちに懇親会へ。久しぶりの再会にお喋りは尽きません。

ゼミごとの小人数の同期会はこれまでも毎年開かれていたものの、懐かしい先生、シスター、先輩後輩に囲まれあっと言う間に時間は過ぎました。すぐにホテル内の別の場所に全員移動し2次会の開始。立場は様々でも学生時代の楽しい思い出を語れば、皆あのときの顔に戻ったようでした。

今回参加できなかった方々も次回はきっと会いましょうね。

学年委員の変更

小永井宏子(4E)	藤田 美子(4C)
峯松 伴美(11C)	太田美由紀(11E)
瀧井 優子(23C)	北谷貴代子(23C)



「国際交流マリアン奨学基金」について



平成17年6月14日「奨学金授与式」
大学内「同窓会室」にて

同窓会は、大学創立40周年を記念して外国人留学生を支援する目的のため、国際交流マリアン奨学基金を設立しました。同窓生の皆様からたくさんのご寄付をいただき、毎年、「新2回生への奨学金授与」と「日帰りツアー」を実施しております。

本年度は、6名の新2回生に教科書代として一人当たり2万円を授与しました。

留学生一人ひとりが「日本での大学生活」についての感想文を読み、昼食をとりながら歓談しました。



「第3回留学生のための日帰りツアー」



今回は、毎年クリスマスシーズンに開催される「神戸ルミナリエ見学」に決まりました。1995年1月17日、神戸はあの「阪神淡路大震災」

により壊滅的な打撃を受け、たくさんの犠牲者が出ました。その鎮魂と街の復興のため「ルミナリエ」は始まりました。今では冬の風物詩になっておりますが、留学生の中には、初めて神戸を訪れる人も多く、震災の傷跡が全く感じられないことに驚いておりました。

12月10日、寒い冬の土曜日は「ルミナリエ」期間中、最高の人出を記録した日でもありました。参加者の何人かが寄宿生だったため、限られた時間の中でスケジュールを組むのは、大変な作業でした。まず、早い夕食をとり、行列の最後尾に並びました。予想以上の長蛇の列を見て、不安な気分になりましたが、なんとか「ルミナリエ」会場に到着。速足での見学でしたが、終点の東遊園地までたどり着くことができました。誰ひとり迷子になることもなく、無事全員が同じ電車で京都に戻りました。「ルミナリエ」の美しさは皆を笑顔にさせ、夜空に輝く光の世界を満喫したのでした。



人間文化学科2回生

石 邵玉(セキ・ショウギョク) (中国)

以前から行ってみたかった神戸ルミナリエを観ることができ、とてもうれしかったです。鮮やかなイルミネーションの装飾は大変美しく感動しました。ルミナリエの本来の意味も忘れ、カメラのシャッターを絶え間なく押していました。テレビでしか見たことがないあの震災があった神戸の街。その後のめざましい復興の速さは、すばらしいと思いました。このツアーを通じて同窓会の皆様とも交流でき、日本の文化を一層知ることができました。今まで話す機会があまりなかった違う学年の留学生達とも、たくさんお話ができたのも、このツアーのお蔭だと感謝しています。このような機会を与えて下さった同窓会の皆様に心から感謝いたします。

韓国カトリック大学交換留学生

金 知英(キム・ジョン)

同窓会主催のルミナリエツアーは、私にとって今年の冬の良い思い出になりました。当日、京都駅から電車に乗り、みんなでわいわいとおしゃべりしながら、期待に胸をふくらまし、神戸へ向いました。同窓会が毎年留学生の為のツアーを計画していることを初めて知りました。まず、おいしい中華料理の夕食でした。同窓会の先輩方といろいろな話をしながらの楽しいひとときでした。その後は、いよいよルミナリエ見学です。土曜日だったので、すごく多くの人に来ていて長い行列ができていました。しかし、ルミナリエは期待どおりでした。雰囲気も、ゼーンぶ素敵できれいでした。私にとって、大変有意義でいっぱい楽しめた一日でした。同窓会の皆様本当にありがとうございました。



アクティビティー案内

ク ラ ス	講 師	内 容	場 所 ・ 日 時	責 任 者
英 会 話	シスター モリーン	能力に関係なく楽しめる英会話	ユージニア館1階 同窓会室 第2・第4月曜日10:30~12:00 8月28日~	大隅万佐子(2E) 尼口 栄子(3E)
書 道	寺田 九絲	漢字は三體(さんたい) 千字文、かなは梅雪かな帖等をけいこする	マリアンハウス 第1・第3水曜日10:30~12:00 5月18日より開始	稲本美也子(18E)
フランス語	阿部 哲三	「ミッシェル・トゥルニエ」の物語を読み進めながら文法や箴言も学んでいく。	ユージニア館1階 同窓会室 第1・第3火曜日10:30~12:30 5月16日より開始	西尾 年代(10E) 山本美和子(19E)
マリアン コース	東 朝子	ストレッチ、発声練習で身体をほぐし、聖歌、季節や時の歌で心を豊かにする	ユニソン会館B1 音楽練習室 第3木曜日 10:30~12:30 5月18日より開始	堀田佳津栄(12E)
英語で 書こう会	シスター セリーン松本	英会話感覚の英作文を楽しく…。	マリアンハウス 第4金曜日 10:30~12:00 5月26日より開始	丹羽 知子(9E)
NDおあしす 京 都	シスター セリーン松本	より豊かに生きるために聖書を日常生活と関連づけて読む(会費無料)	マリアンハウス 第4金曜日 13:00~15:00 5月26日より開始	丸山ヒデ子(4E)
NDおあしす 名 古 屋	シスター セリーン松本	同窓会のためのオープンスペース。 共に学び、祈り、支え合い、はげまし合う。	国際センター 第2金曜日 10:30~12:00 祭日は休講	仙田悠美子(3E)
手 芸 ボ ラ ン テ ィ ア		手芸品製作・販売 あなたの作品・アイデアをお寄せください	マリアンハウス 第1・第3金曜日 10:30~15:00 5月12日より開始	岡 和(4E)

※各クラス受講料は学期毎に1,500円(3回/学期)又は2,500円(5回/学期)。

※各クラス共5名以下の場合、休講とさせていただきます。

※お申し込み、お問い合わせは各責任者又はマリアンハウスまで。

クラスアクティビティー 感想文

「書道部に参加して・・・」

竹内ルリコ(17C)

約2年前、「初心者の方が参加しても大丈夫かな・・・？」と不安な面持ちでドアを開けさせてもらいました。寺田先生をはじめ、諸先輩方は、とても明るく温かく迎えてくださいました。たくさんのお弟子さん、孫弟子さんをお持ちの先生ですが、一人一人に、優しい眼差しで、丁寧に、ユーモアを交えながら指導されます。また、クラスの皆様はおしゃべりを楽しみながらも、一步一步実力を高められています。チャリティバザーへの作品作りの際、初めてかなを書く私の隣に先生が来て下さり、一字一字、一緒に筆を動かし、私に自信を与えてくださいました。この様な和やかな雰囲気にも包まれ、楽しくお稽古できる幸せを感謝する日々です。



日本文化研究会18年度予定表

- 2006.6.20(火) 聖護院門跡寺院 襖絵拝観と執事お話
アミタ本店、京象嵌製作体験
9.20(水) 司馬遼太郎記念館
11.21(火) 日本民家集落博物館
- 2007.1.16(火) 新年会 琵琶鑑賞(万博記念公園 茶室汎庵)
3.20(火) 淀鍋迎賓館(お雛様) 俵美術館
4.17(火) 寿長生の里 和菓子作り体験

責任者

代表 水谷 訓子(4E)
長谷川るり子(4E)
前田 順子(4E)
鎌田 玲子(4E)
信田 知余子(4E)
伊藤 博子(4E)



ノートルダム ファミリー コンサート

2005年9月3日(土) 京都コンサートホール



ノートルダム三校の卒業生が心ひとつに母校への感謝を表し、その発展を願い、音楽を通して互いの絆をひろげようとの趣旨で始まったこのコンサートは、予想を上回る入場者を得て、盛大に行われました。

Notre Dame (われらの母…聖母) を学校名にいただいている私たちの音楽会はまず、卒業生ソリストたちの歌う聖母マリアへの祈り、アヴェマリアで始められました。学校法人理事長Sr.ジュディス鎌田による挨拶の後、卒業生音楽家による声楽、ヴァイオリン、オルガンでは「G線上のアリア」他が演奏されました。

第二部は大山平一郎氏(小学校1回卒・大阪シンフォニカー常任指揮者)指揮で、女学院、学院小学校のオーケストラによりドヴォルザークの交響曲「新世界より」第四楽章が演奏され、小中校生たちの演奏とは思えないほどの迫力に会場はぐんぐんと引き込まれました。クライマックスは「ハレルヤコーラス」の大合唱、舞台上は三校の在校生、保護者、卒業生、教職員に、オーケストラメンバーを合わせて260余名となりました。最後は三校の校歌・学歌がメドレーで合唱され、コンサートを一層盛り上げました。

今後、「3年に1度はやりたい」とおっしゃるSr.ジュディス鎌田理事長は、その理由として『生徒たちの在校中に1度はノートルダムの絆の力を感じる機会をあげたいと思うからです。勿論大変なエネルギーと時間が必要ですので、「やりましょう!」と言ってくださる同窓生があつての話です。』と、加えられました。 Y.H (2E)

☆皆様のご協力のお陰で出ました若干の収益は、学院、女学院、大学に寄付いたしました。三校合同でのコンサートは初めての試みでしたが、当日予想を上回る来場者があり、一部の方々にご迷惑をおかけした事をお詫び申し上げます。実行委員一同



☆当日のビデオ(VHS)・DVDを販売しております。(2,000円+送料)

お問い合わせ先 ノートルダム女学院 文書室 TEL: 075-771-0570 FAX: 075-752-1087

●●●第4回パソコン教室●●●

主催: 京都ノートルダム女子大学同窓会 ノートルダム女学院同窓会
後援: 京都ノートルダム女子大学ビジネスアカデミー

ホームページ作りを簡単にするブログをまなぼう!!

同窓会主催のパソコン講座も早いもので4回目を迎えます。今回は今話題のブログを学びます。
【ブログ】とは【ウェブブログ】を略した言葉で【Web上に残される記録】という意味を持ちます。
今までホームページ作りは難しいと思っていた方にも手軽にブログが作れます。
ブームのブログを体験しましょう。個人のホームページを作って楽しんでみませんか。

講座時間
2時間×3回
10:30~12:30

受講料
3,000円
会 員

教材費
1,600円

会員外受講料
4,500円

受講条件 入力の出来る方

出来ない方で受講ご希望の方は、10時よりご指導致します。

日程 2006 年 6 月

16日(金)・23日(金)・30日(金)

□お申込み方法

TEL: 075-706-3765 (ビジネスアカデミー) へお問い合わせの上、お申し込みください。

申込振込締切: 6月12日(月曜日)

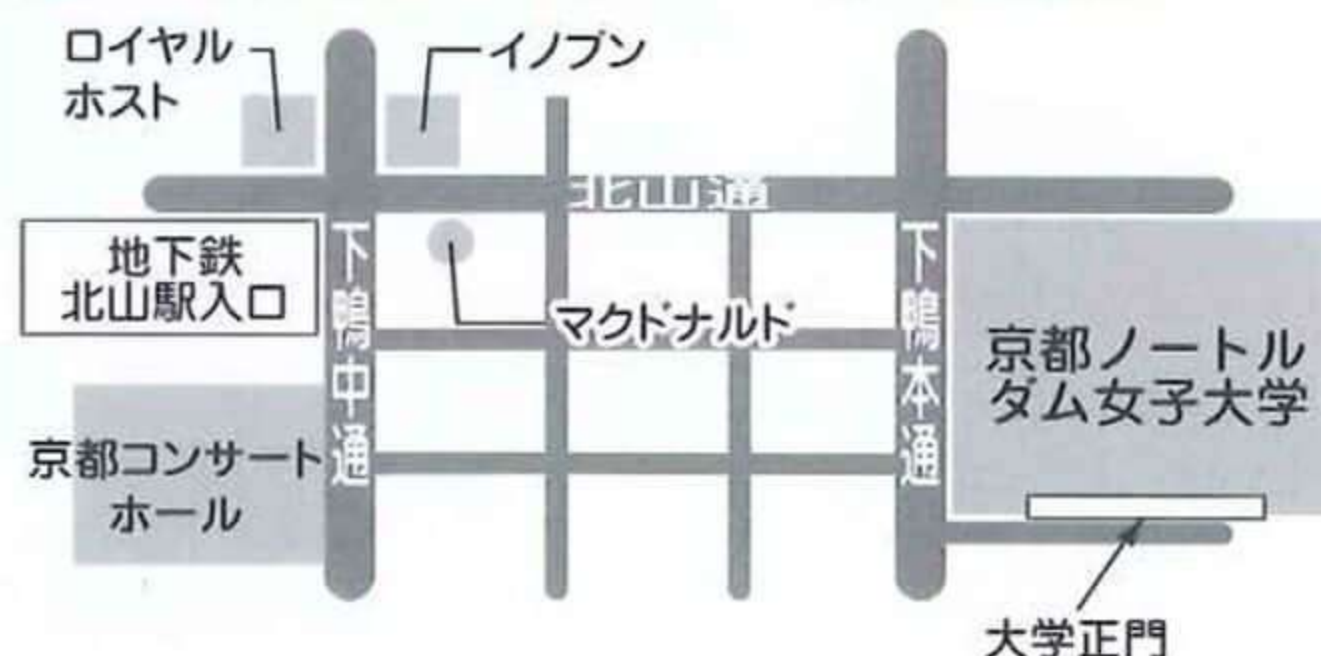
振込先: 京都中央信用金庫 西院支店 普通

口座名義: 京都ノートルダム女子大学ビジネスアカデミー

口座番号: 0712963

《注意》振込料ご負担ください。会員振込金額4,600円・
会員以外振込金額6,100円

会場: ユニソン会館 1F ビジネスアカデミー



平成18年度 マリアンハウスチャリティーバザー 10月19日(木) 開催!!

平成17年10月21日(木)恒例のバザーがマリアンハウスにて開催され、約90名の参加者で賑わいました。1階のラウンジでは、好評の手作りケーキ、多数の寄贈品や手芸ボランティア、及びスタッフによる手作り作品、委託品、その他多種多様な品々が販売されました。その収益金は11月16日付の京都新聞の「善意の小箱」を通じてパキスタン地震救援金として寄贈しました。2階では例年通り書道クラスや文化プログラムの作品を展示しました。

また、当日には23期生ミニ同窓会が行われました。主旨といたしましてはマリアンハウスの活動をより多くの同窓生に知ってもらおう事、学年委員を辞任される方の後継を決めるという事でした。急な案内でしたが京都市内在住の18名が出席し、和やかな雰囲気の中、会話ははずみ、委員2名も無事決定いたしました。今年も色々な形で皆様のご参加をお待ちしています。



マリアンハウススタッフ

北尾 禮子 (3C) 濱田美智子 (6E)
土坂比呂子 (6C) 西岡由美子 (12E)
中 島 馨 (13E) 瀧井 優子 (23C)
北谷貴代子 (23C)

今年も沢山の寄贈品をお送りくださいますようお願い申し上げます。

寄贈品 送り先

〒606-0015 京都市左京区岩倉幡枝町628 マリアンハウス
Tel&Fax 075-701-9149

マリアンハウス運営委員会からのお知らせ

マリアンハウスでは、皆様の日常生活に役立ち、気楽に参加して頂ける文化プログラムを、企画運営しております。皆様のご参加は勿論、斬新な企画の提案やプログラムに関するご意見、ご希望などもお待ちしております。



17年7月 フラワーアレンジメント作成風景



17年6月 変わり寿司講習



マリアンハウスプログラム

月 日	時 間	内 容
H18 6月28日(水)	10時30分～12時30分	料理(手軽なおもてなし料理) 宇野千賀先生
7月26日(水)	10時30分～12時30分	講演「老人介護の望ましいあり方」 丸山公子先生
9月27日(水)	10時30分～12時30分	バザー用作品作り
10月19日(木)	10時30分～14時00分	チャリティーバザー
11月22日(水)	10時30分～12時30分	クリスマスツリービーズペンダント 森本純子先生
H19 3月28日(水)	10時30分～12時30分	ケーキ講習 西村玲子先生
4月25日(水)	10時30分～12時30分	アッセンデルフト 田中久美子先生

* 諸般の事情により日程の変更があります。お問い合わせはマリアンハウスまで。

平成18年度

第42回総会のお知らせ

日時 5月21日(日) 午前11時 (受付 10時30分～)
 場所 京都宝ヶ池プリンスホテル「高砂の間」
 地下鉄「国際会館」下車 TEL 075-712-1111
 会費 6,000円 子供(小学校以下) 1,500円
 エンターテイメント さかした日出美による「一人芝居」

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

今回担当の12期生も50歳を越え「We miss everything」と感じる年代になってきました。

今まで参加できなかった方も、まずは第一歩として、参加してみませんか！

なつかしい先生方、先輩、後輩たち…もちろん！同期生がいます。

同窓会に参加すると、なぜか不思議とパワーがもらえて、「よーし、頑張ろう!」という気持ちになりますよ。

エンターテイメントの時間には、12期生自慢の星。さかした日出美さんの「ひとり芝居」を選びました。

ノートルダム女学院中学、高校時代は演劇部に所属、大学在学中に「関西芸術座」で芸を磨き、遂に1991年から千葉県柏市で出前劇団「ピーターパン企画」を立ち上げ活躍している女優で現役主婦です。

ひとりでも多くの方に見てもらいたい、知ってもらいたい、と関東から喜び勇んでやって来ます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

12期生学年委員 西岡由美子
北澤みよ子

さかした日出美 プロフィール



1953年生まれ

ノートルダム小学校、ノートルダム女学院中、高卒

1975年 ノートルダム女子大学英文科卒

大学在学中「関西芸術座」入団

結婚、出産を経て1986年千葉県「劇団W」入団

1991年～ 柏市にて出前劇団「ピーターパン企画」を立ち上げる

地元を中心に年間20ステージを公演

1992年～ 演劇集団グループ「陽気姫」を旗揚げ

年1～2回の公演

1995年～ ひとり芝居、リーディングを自らプロデュース

東京、京都、名古屋などで公演

2001年～ 演出も担当、他劇団との交流に活動

主な出演作

井上ひさし作

「マンザナわが街」

「頭痛肩こり樋口一葉」

清水邦夫作

「楽屋」

菊本健郎作

「ミゾケンを斬った女」

「歌姫に憑かれた女」等



祝周年

40周年 2期

35周年 7期

30周年 12期

25周年 17期

20周年 22期

15周年 27期

7期生

35周年記念同窓会へのお誘い

今までお目にかかれなかった方も
 この秋には是非ご参加を…!!
 気軽に楽しい同期会を計画しています。

(幹事) 西田待子、斎城典子、高嶋明美

2期生

40周年記念同窓会へのお誘い

今秋、予定しております
 楽しみに、お待ちください
 後日、案内差し上げます。



編集後記

今年も会報「マリアン」を皆様にお届けできることを嬉しく思います。

人長会長の下、平均年齢もぐっと若くなった本部役員会は時代に即した同窓会活動を考えています。新会員になられた方は初めて手にするこの会報によって同窓会活動の様子がよく理解できることでしょう。

また、今までの会報を読まれていた会員の方には、リニューアルされたこの会報によって、今まで以上に

同窓会への理解が深まったのではないかと手前味噌ながら信じております。

ご協力していただいた方々にお礼申し上げます。会報に何か載せたいと思われる方はお知らせください。今後のために役立つ、ご意見、ご要望をお待ちしています。

(広報) 羽鳥美登里(9C) 田藤 博子(10E)

●本年度の京都ノートルダム女子大学、学部卒業生は361名でした。



マリアンハウス



■開館曜日・時間／月・水・金 10:00～15:00
(但し、上記以外でも相談の上、使用可。)

■年間休館日／●夏休み 8/1～8/31
●冬休み 12/20～1/10



開館使用料	1 F ホール 3,000円 2 F ・和室(8畳) 1,500円 ・和室(6畳) 1,500円 ・洋室(6畳) 1,500円 使用時間: 10:00～15:00 冷暖房、台所使用可。
宿 泊	1泊1人 2,500円(2名より10名まで) チェックイン: 15:00～17:00 チェックアウト: 10:00迄 キャンセル: 5日前までに以後は 50%のキャンセル料 冷暖房、台所、浴室使用可。